

災害や緊急時弱者手助け、QR コードに情報登録 弱者救済支援システム「ぴーすけ」普及に力（沖縄）

県肢体不自由児者の会連合会（県肢連）は、言葉が不自由な障がい者や高齢者の緊急時に、名前や住所、連絡先、服用薬などの情報を手助けして健常者に提供する「弱者救済支援システム『ぴーすけ』」の普及に力を入れている。QR コード（2次元バーコード）付きのカードにあらかじめ情報を登録し、健常者が携帯電話でコードを読み取る。災害時の避難誘導や緊急連絡、医者が治療時のカルテとして利用する。ただ、QR コードで情報提供する仕組みの知名度が広がらなければ効果は薄いため、同連合会は「多くの人に『ぴーすけ』を知ってもらいたい」と呼び掛けている。

宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会の山元弘道会長が災害が起きても「息子の安全が守れるように」と企画、宮崎公立大学と共同開発した。重度の障がいや認知症がある場合、災害時に孤立すると、

家族と連絡を取るのが難しくなる。

治療が必要でも病歴や服用する薬、血液型、アレルギーの有無などが不明であれば治療が遅れる。そのため QR コードに情報を一元化して、誰もが携帯電話で情報にアクセスできる仕組みを作った。

昨年4月から北海道や宮城県、東京都などで普及に取り組んでいる。3月11日、沖縄市比屋根の沖縄小児発達センターで説明会があり、山元さんが「ぴーすけ」の特長を紹介し、「災害時に障がい者が身を守るには、外部に自分の情報を公開して手助けを得る必要がある」と指摘。カードだけでなく、QR コードをコピーしたシールを車いすや文房具、かばんなどに貼るなどして、目に触れる機会を増やすことが大切とした。

問い合わせは県肢連、電話 098（836）2352。

（沖縄タイムス・那覇 2014年3月15日）

「ノーマライゼーション・障害者の福祉」3月号特集目次

＜第1特集＞東日本大震災から3年、防災と障害者「巻頭メッセージ」（松岡由季）

災害対策基本法の改正と今後の展開（内閣府政策統括官（防災担当）付）

「被災地首長からのメッセージ」（岩手県陸前高田市市長 戸羽 太）

（宮城県女川町長 須田善明）

心ひとつに 世界に誇る 南相馬の再興を～防災と障がい者～（福島県南相馬市長 桜井勝延）

＜提言・自然災害と障害者＞

東日本大震災からの提言メッセージ（及川清隆）
災害は精神障がい者にどのような影響をもたらしたか（渡部裕一）

震災から見た「知的障害をもつ方の人の環境と意思決定支援」（古川 敬）

旭市における被災者支援の経験から（吉野 智）
福祉事業者と連携した災害時の障害者支援方策（鍵屋 一）

防災の主役は地域の住民です（鳥羽 茂）

自然災害への備え（樋口恵子）

自然災害と障害者（秋山哲男）

新潟県三条市における災害時要援護者支援の取り組み（蝶名林正身）

災害時における障がい者支援についての共通の課題～台風30号と東日本大震災からの学び～（五十嵐 豪）

＜第2特集＞平成26年度障害保健福祉関係予算

平成26年度障害保健福祉関係予算（案）について（厚生労働省障害保健福祉部企画課）

平成26年度障害保健福祉部予算について（今村 登）

平成26年度障害保健福祉関係予算について（片桐公彦）

最近の立法・政策動向と平成26年度予算（大曾根 寛）